

『悪いことは良いことよりも強い』

アメリカの心理学者の言葉である。

幸福よりも不幸のほうが重く人間の心の中にしかかる、ということだ。

フードが自らの死を選んだように、コートが自らの死を選んだことに何の不思議もなかった。  
彼女もまた、天から押し付けられた苦痛と戦っていたからだ。

コートは自らの部屋で死体となって発見された。

直接の死因は心臓へ突然の発作が起こったことによる突然死であったのだが、

彼女は寝ている最中に自らの布団で自らの首を絞めていたのだ。

それが彼女の意思で行われたのかは定かではないが、自死の最中に死亡したことは確かである。

顔は青く、舌は飛び出しており、剥いた葡萄のように筋の通った青白い目玉には彼女が感じたであろう苦悶がありありと映し出されているようであった。

死体の第一発見者は近所に住むアンバーという女であった。

彼女も数奇な運命のもとに生まれており、アンバーの両親は彼女が義務教育を終えたタイミングで離婚。

両親はそれぞれ別の交際相手と再婚し、『フード』『コート』と呼ばれる子を設けた。

アンバーは同時期に産まれた彼女達が親の競争の道具にされることを危惧し、

そんな両親の手から二人を救い出そうと、3人暮らしするための貯金を蓄えていた。

しかし、投資詐欺によってその貯金の大半を失い、計画は頓挫することになった。

アンバーは詐欺の失意のさなか、フードが自死したことを知る。

自分の未熟さ、不足をかみしめ、引きこもってしまったコートを見守りながら生きていたが、

皮肉にも彼女は自死したコートの第一発見者となった。

怒りに任せた彼女は通報を済ませると、

そのままコートの実家へと乗り込み、父母の胸ぐらを掴むなどの行為に出た。

その際突き飛ばした相手を負傷させ、アンバーは現在傷害罪の疑いで警察署に連行されている。

アンバーはうわごとのように同じ言葉を繰り返している。

内容は以下の通り。

おねえちゃんなのに、守れなくてごめんね。

